

CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	草加消防署(消防局機能含む)	階数	地上4F
建設地	埼玉県草加市	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	120人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年8月 予定	評価の実施日	2023年3月3日
敷地面積	4,962 m ²	作成者	株式会社大誠建築設計事務所 大形一朗
建築面積	1,213 m ²	確認日	2023年3月3日
延床面積	4,052 m ²	確認者	株式会社大誠建築設計事務所 大形一朗



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合 地域に密着した災害活動拠点である。 断熱性の高い材料と高効率な設備機器の導入、節水型機器の採用等により、環境負荷の低減に配慮した建物である。		その他 0
Q1 室内環境 F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、全館禁煙とするなど空気質環境にも十分配慮している。	Q2 サービス性能 内外装共防汚性に配慮した材料を使用するなど維持管理に配慮している。 免震構造や耐震性の割増しを行い信頼性に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 緑地を設けることにより良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー 高効率空調機、LED照明、高効率給湯器を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。	LR2 資源・マテリアル 自動水栓や省水型機器を用いるなど水資源を保護している。 フリーアクセスフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。	LR3 敷地外環境 広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
草加消防署(消防局機能含む)

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.0
Q1 室内環境							0.40	-	-	2.8
1 音環境						3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音						3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能						3.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	-	-	
1.3 吸音						3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境						2.1	0.35	-	-	2.1
2.1 室温制御						2.1	0.50	-	-	
1 室温				断熱材を強化し、外皮性能を上げている		2.0	0.38	-	-	
2 外皮性能				窓SC:0.56窓U:3.38、外壁U:1.20、屋根U:0.44		4.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性						1.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						3.1	0.25	-	-	3.1
3.1 昼光利用						3.0	0.30	-	-	
1 昼光率						3.0	0.60	-	-	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策						3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御						3.0	1.00	-	-	
3.3 照度		3F執務室 設計照度750lx				4.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.3	0.25	-	-	3.3
4.1 発生源対策						4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆建材をほぼ全面的に採用している				4.0	1.00	-	-	
4.2 換気						1.6	0.30	-	-	
1 換気量						3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能						1.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理						4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		全館禁煙としている				5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.6
1 機能性						3.5	0.40	-	-	3.5
1.1 機能性・使いやすさ						3.6	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		1人当たりの執務スペースが9㎡以上				4.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画		バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たしている				4.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						3.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		事務室天井高2.7m以上				4.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース						2.0	0.33	-	-	
3 内装計画						3.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		維持管理に配慮した設計において、取組みが標準以上				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		維持管理用機能の確保において、取組みが標準以上				4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						4.1	0.30	-	-	4.1
2.1 耐震・免震・制震・制振						5.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法に定められた50%増の耐震性を有する				5.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		免震装置を導入している				5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		天井:RW吸音板:30年、壁:ビニルクロス:15年、床:ビニル床タイル:30年				4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		厨房給排気ダクトにステンレスダクトを採用している				4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:塩ビ:B、汚水、雑排水:塩ビ:B、Eは不使用				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						3.2	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		節水型器具を採用、可能な限り配管系統を区分、雨水を利用している				4.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.3	0.30		-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			4.0	0.30		-	-	
1 階高のゆとり	階高3.7m以上、3.9m未満		4.0	0.60		-	-	
2 空間の形状・自由さ	0.1≤壁長さ比率<0.3		4.0	0.40		-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30		-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30		-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30		-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40		-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.77		5.0	0.20		-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEI _m] = 0.72		3.8	0.50		-	-	3.8
4 効率的運用			2.5	0.20		-	-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00		-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制			2.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価			-	-		-	-	
4.1 モニタリング			-	-		-	-	
4.2 運用管理体制			-	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	-	3.5
1 水資源保護			3.8	0.20		-	-	3.8
1.1 節水	自動水栓などに加えて、節水型便器を主要水栓の過半に採用している		4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	雨水を利用している		4.0	0.70		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60		-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	再生クラッシュラン:基礎下、断熱材:車庫天井内		4.0	0.20		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+LGS+仕上とし、躯体と仕上材が容易に分別可能 再利用できるユニット部材としてOAフロアを採用		5.0	0.20		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20		-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70		-	-	
1 消火剤			-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=50未満の発泡剤を用いた断熱材を使用		4.0	0.50		-	-	
3 冷媒			3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率82%		3.7	0.33		-	-	3.7
2 地域環境への配慮			3.0	0.33		-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33		-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	-	
1 騒音			3.0	1.00		-	-	
2 振動			-	-		-	-	
3 悪臭			-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制			-	-		-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20		-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」のチェックリスト項目の過半を満たし、広告物照明を行っていない		5.0	0.70		-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	-	

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	草加消防署(消防局機能含む)	BEE	1.3	BEEランク	★★★
------	----------------	-----	-----	--------	-----

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.7	+	2.6	=	6.3	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上		すばらしい 8.0以上	
					

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	3.7
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.7
<配慮した内容を記述> 高効率空調機、LED照明、高効率給湯器を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述> 通路等の空地を多く設け空地率を高くすることにより、風の通り道を確保している。 隣等間隔等を工夫し、風下地域への風通しに配慮している。			

: 入力欄